

出雲市立湖陵幼稚園 実践発表会指導案 <4歳児>

2.最近の子どもの姿

- 友達と一緒に遊ぶことを喜び、友達と思いや考えを伝え合いながら遊ぶ姿が見られるようになった。
 - ・「一緒に遊ぼう」「～～して遊ぼう」と、声をかけ合って遊び始める姿が見られる。
 - ・友達と一緒に遊びたい気持ちはあっても、自分から遊びに誘うことができなかつたり、一方的に自分の思いを伝えてしまつたりすることから、うまく友達と遊ぶことができない子どももいる。
- 4月より、合わせて5名の子ども達が入園し、また、個別に支援を要する子どもや不安定な姿が見られる子どももいる。
 - ・集団生活における生活習慣面の習得度や遊びの興味・関心の対象など、個人差が非常に大きい。
 - ・入園児がいることで、「お手本にならなくちゃ！」という気持ちをもつたり、友達関係に変化が起きたりなど、いい意味での刺激も受けている。
- 神西湖に園外保育に出かけ、生き物に出会った感動や、草花を摘んだりして楽しかったことなどを、幼稚園で再現しようとしている。
 - ・本物らしい神西湖づくりにこだわり、皆で力を合わせて透明の水が溜まるように頑張ってきたことから、自分達のつくった神西湖に愛着をもっている。
 - ・神西湖だけでなく、神西湖の水を汲み出した時にできた水の通り道を差海川に見立てたり、その先に穴を掘って海に見立てたりなどして楽しんでいる
 - ・カニやシジミなどを捕まえて自分達の神西湖に放しているが壁から逃げ出してしまうたり、水が熱くなつたり、カラスなどの外敵から狙われたりして思うように飼育することができず、どうしたらよいか試行錯誤している。

3.活動のねらい

- 自分のしたい遊びを見つけ、友達と一緒に心ゆくまで楽しむ。 【5つの心の①】
- 教師や友達と心を通わせ、自分の思いをのびのびと伝えながら、かかわり合って遊ぶことを楽しむ。 【5つの心の②】
- 生き物や植物に心を寄せ、飼育、栽培をする中で、変化に気付いたり、いたわりの気持ちをもつたりする。 【5つの心の③】
- 「みんなの神西湖を作ろう」という共通のめあてをもち、思いや考えを伝えたり、自分なりの方法を工夫したりしながら、実現させていく。 【5つの心の④】
- 遊んだ後は友達や教師と一緒に使ったものを元の場所に返したり、最後まで片付けたりする。 【5つの心の①】

4.教師の願い

- 砂や土、水などに触れ、思いきり気分を開放させながら、思う存分遊びを楽しんでほしい。
- 皆で一つの活動に向かっていく中で、一緒に遊ぶ楽しさを味わつたり、力を合わせることの大切さに気付いたりし、「皆仲間」という意識を強くしていつてほしい。
- 本物らしい神西湖をつくるために、自分なりに考えたり、工夫したりしながら試していくことで、探究心の芽生えを養ってほしい。

5.環境の構成と援助

- より本物らしい神西湖に近づくように、神西湖に出かけて湖に生えている植物やそこに住んでいる生き物などを観察したり、採つたり捕まえたりして幼稚園に持ち帰つたり、必要に応じて教師が用意したりする。
- 一人一人がそれぞれに自分のしたい遊びを見つけて楽しめるように多様性をもたせ、自分なりに神西湖をつくる活動にかかわろうとしている姿を認め、支えていく。
- 子どもが主体的にかかわって遊ぶ中で、遊びがより楽しくなつたり、工夫して遊んだりできるよう、環境を再構成していく。
- 子どもの「やってみよう」「こんなふうになりたい」という思いが実現できるように、材料や用具を準備しておく。
- 子ども達が試行錯誤している姿を大切に、納得がいくまで丁寧に活動を展開させていくようにする。
- 教師も遊びの仲間になって子どもの発見や気付き、感動に共に心を動かすことで、子ども達がより深く思考力を働かせたり、満足感を味わつたりできるようにする。
- 遊んだ後の片付けについては、遊びの続きができるように、残すものなどを皆で相談して決めたり、きれいになったことを喜んだりしながら進めていく。

